

和歌山県 有田川町

有田川町は、2006（平成18）年1月、旧吉備町、旧金屋町、旧清水町の3町が合併して誕生しました。和歌山県の中央部の北寄りに位置し面積は351.84km²、和歌山県内では田辺市に次いで2番目に広い自治体です。

有田川町は、その名が表わすとおり有田川を中心とした自然豊かなまちです。まちのシンボルあらぎ島は、その周囲の景観とともに「^{あらぎしま}蘭島及び三田・清水の農山村景観」として2013（平成25）年に国の重要文化的景観に選定されています。さらに2021（令和3）年には、「聖地 高野山と有田川上流域を結ぶ持続的農林業システム」と「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」が日本農業遺産に認定されました。有田川町は、美しい自然のなかで人々の暮らしが農林業を文化的・伝統的に育んできたまちと言えるでしょう。



あらぎ島

有田川町の人口は、合併してからの18年間を通じて、平野部の人口は増加していますが、山間部では減少し続けています。特に清水地域の減少が著しく、山間部になればなるほど人口減少と少子高齢化が急速に進んでいる状況です。有田川町の各地域が発展するためには、吉備地域を中心とした平野部と、金屋・清水地域を中心とした山間部で地域の特色を活かしたまちづくりを進める必要があると考えます。

2015（平成27）年から始まった、まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みとして、有田川町では住民参加のまちづくりを進めてきました。その取り組みのなかで、まちづくりへの想いや課題を共有する人が集まり、廃園となった保育所が新たな起業の場として人が集まる場所へと生まれ変わるプロジェクトが進むなど、地域の問題解決につながる新しい活動や交流が少しずつ行われるようになってきました。

「～川が結び、川が育む、森とまち～人が集い、思いを紡ぎ、新しい流れをつくるまち」この有田川町のスローガンのもと、このまちに住みたいと思う人が増え、若者が集まるまちをつくとともに、このまちが地方都市の理想のまちづくりの源流となる、そんな有田川町を目指しています。

和歌山大学との包括連携協定

これまで有田川町と和歌山大学との間では、観光学部地域インターンシッププログラムによる清水地域における棚田保全・集落活性化支援「棚田ふあむ」の活動での関わりや、「都市計画マスタープラン」、「蘭島及び三田・清水の農山村景観保存計画」などの各種計画への策定支援等における協力などが行われてきたところです。

2023（令和5）年6月に、本山学長が首長面談に来てくださり、そこから連携への動きが一気に加速しました。ただ協定を結ぶだけでなく具体的に何か実のあることをやりましょう、というようなご提案もいただきました。ちょうど2022（令和4）年度から清水地域の八幡中学校3年生の生徒が、年間を通じて自分たちの住まわいのことを学習し、和歌山大学の足立先生のアドバイスを得ながらその成果を発表するというプロジェクトを実施していましたので、その成果を和歌山大学の協力のもと清水地域の地元の方々と大学（学生さん）を巻き込んで発表するフォーラムを企画しました。フォーラムは八幡中学校、和歌山大学にも了解をいただき、連携協定の締結とセットで準備を進めることとなりました。



協定式記念撮影

「しみず まち・未来づくりフォーラム」の開催

フォーラムには、和歌山大学足立ゼミの皆さんも参加いただくこととなり清水地域での事前フィールドワークや中学生とゼミ生の皆さんとの顔合わせなど、慌ただしく準備に追われるなか、12月4日に包括連携協定を締結、2日後の12月6日に「しみず まち・未来づくりフォーラム」を開催しました。フォーラムには中学生、学校関係者、清水地域内外の方々、大学・役場関係者併せて約120名の皆さんに参加いただきました。

第1部のまちづくり学習の成果発表については、八幡中学校の生徒の皆さんから5年後の清水地域のために必要なことや、令和6年にリニューアルオープンする「新しみず温泉」を盛り上げるための新商品のアイデアなど、中学生ならではの視点から発表がありました。第2部では、中学生の発表を受けて「5年後の清水地域」「新しみず温泉を核とした新しい観光のかたち」をテーマに、フォーラム参加者が4つの班に分かれて自由に参加するワークショップ（以下、WS）を実施しました。

中学生は自分たちの学習発表だけでなく、フォーラム全体の司会や受付の補助等の運営にも参加、また足立ゼミの学生さんはWSのファシリテータとして参加者の議論をスマートにまとめてくれました（WSには、中学生、大学生、地域内外の方々、役場職員、町長も参加し白熱した議論となり、思わず会場のエアコンをオフにしたほどでした）。

和歌山大学との連携協定の第一歩となったこのフォーラムについては、大学関係者の皆さまはもちろんのこと、八幡中学校の教職員の皆さまからも多大な協力をいただき開催することができました。この場をお借りしてお礼申し上げるとともに、このフォーラムを出発点として今後の清水地域の未来を地域内外の人が考えて実際に動いていく、そのような流れがおきることを願うばかりです。



学習の成果発表を行う中学生



フォーラムで行ったワークショップの様子

これからの連携・展開について

2023（令和5）年度は、前述のとおり包括連携協定の締結、フォーラム開催での協力など、本町と和歌山大学との連携のうえで大きな一歩を踏み出した年と言えます。しかし、重要なのはこのパートナーシップ関係を継続し地域課題の解決に活かしていくことです。これらの事業を通じて、有田川町のまちづくりを進めるうえで欠かせない清水地域の活性化について課題が見えてきました。今後も清水地域のことはもちろんですが、包括連携の強みを活かし、有田川町全体のまちづくりのさまざまな問題・課題について、大学と連携しながら解決に取り組み、新しい住民参加のまちづくりを進めていきたいと考えています。

有田川町企画調整課